



CCFT リリースノート

Customer Carbon Footprint Tool



Customer Carbon Footprint Tool: CCFT リリースノート

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

Customer Carbon Footprint Tool Release Notes	1
その他のリソース	1
リリースノート	1
2026	1
2025	3
2023	8
2022	8
.....	x

Customer Carbon Footprint Tool Release Notes

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) リリースノートには、Customer Carbon Footprint Tool リリースに関する詳細が記載されています。これには、サービス、コンソール、計算に関連する新機能、更新、修正が含まれます。Customer Carbon Footprint Tool サービスの更新をリリースすると、リリースの内容を説明するリリースノートが発行されます。

その他のリソース

Customer Carbon Footprint Tool の詳細については、次のリソースを参照してください。

- AWS Billingユーザーガイドの「[Customer Carbon Footprint Tool](#)」の章 - 概念、ツールガイダンス、セットアップ、推定のリファレンスマテリアル。
- [Customer Carbon Footprint Tool](#) - Customer Carbon Footprint Tool のマーケティング概要。
- [AWS持続可能性](#) - 環境問題に対処し、グローバルオペレーション全体で持続可能なプラクティスを促進するためのAWSイニシアチブ、目標、進捗状況。

リリースノート

トピック

- [Customer Carbon Footprint Tool 2026 リリースノート](#)
- [Customer Carbon Footprint Tool 2025 リリースノート](#)
- [2023 年の Customer Carbon Footprint Tool リリースノート](#)
- [2022 年の Customer Carbon Footprint Tool リリースノート](#)

Customer Carbon Footprint Tool 2026 リリースノート

このセクションでは、Customer Carbon Footprint Tool に加えられた更新について説明します。このページには、2026 年の新機能または更新された機能、バグ修正、改善、廃止された機能に関するお知らせが一覧表示されます。

2026 年 6 月 30 日

CCFT は廃止されました

CCFT は廃止され、追加の機能を提供し、請求権限を必要としない新しいAWS持続可能性サービスが優先されます。AWS持続可能性リリースノートは AWSコンソールで入手できます。[AWS持続可能性ユーザーガイド](#)を参照してください。

2026 年 6 月 17 日

2 つのAWSリージョンでの排出量の更新

アジアパシフィック (ムンバイ) とカナダ西部 (カルガリー) でを使用しているお客様は、2026 年 5 月のデータからロケーションベース (LBM) と市場ベース (MBM) の排出量が増加します。これらの更新は、これら 2 つのリージョンの電力消費量を見積もる方法の改善を反映しており、実際の負荷に基づいて炭素排出量をより正確に帰属させます。アジアパシフィック (ムンバイ) とカナダ西部 (カルガリー) のスコープ 2 排出量は、2026 年 1 月以降、過小評価されていました。AWSは、2026 年 2 つのリージョンの修正値を含む 2026 データを再公開します。

2026 年 4 月 22 日

炭素排出量の方法論をバージョン 3.0.1 に更新

炭素排出量の見積もりの計算に使用されたデータソースから入手可能な最新のスナップショットを使用して、2025 年のデータを再計算し、再公開しました。これには、見積りの使用からユーティリティプロバイダーからの請求データの使用へのスコープ 2 データの更新が含まれます。

また、以下に詳述するバージョン 3.0.1 のデータ品質の問題も 3 つ修正し、2022 年 1 月までの排出量を最新バージョンで再計算しました。ほとんどのお客様は、炭素排出量の見積もりに大きな変更はありません。

- このモデルは、2025 年 5 月より前にインストールされた IT ハードウェアラックに古いデータスナップショットを使用していました。
- このモデルには、スコープ 3 内のサーバーラックごとに 1 か月あたり 1 日の炭素配分がありませんでした。
- 割引やキャンセルによるマイナス収益額の処理を修正し、少数のアカウント (<0.01%) でマイナスの炭素排出量の見積もりを確認しました。

2026 年 3 月 31 日

CCFT 非推奨通知

CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しいAWS持続可能性サービスが優先されます。[AWS持続可能性ユーザーガイド](#)。

2026 年 2 月 23 日

データエクスポートでの炭素排出量のオンデマンドバックフィルが利用可能になりました

炭素排出量データエクスポートのオンデマンドバックフィルをサポートするようになりました。これは、既存のデータエクスポートがあり、新しい列または新しい方法論がリリースされ、履歴データを最新の情報で更新する場合に便利です。[ユーザーガイド](#)の「リクエスト方法」を参照してください。

2026 年 2 月 19 日

複数のAWSリージョンでの市場ベースの排出量の更新

アジアパシフィック (メルボルン)、北米リージョン (バージニア北部、オハイオ、オレゴン、北カリフォルニア、カルガリー、カナダ中部)、インドリージョン (ハイデラバード、ムンバイ)、北米のエッジロケーションでを使用しているお客様は、2026 年 1 月から市場ベース (MBM) 排出量が増加します。アジアパシフィック (香港)、アジアパシフィック (シドニー)、アジアパシフィック (ニュージーランド)、南米 (サンパウロ)、アフリカ (ケープタウン) でを使用しているお客様は、2026 年 1 月以降、市場ベースの排出量が減少します。

これらの変更は、カーボンフリーエネルギーの使用を拡大し、2040 年までにネットゼロ炭素を達成する一方で、バンドルされていない再生可能エネルギークレジット (uRECs)。

Customer Carbon Footprint Tool 2025 リリースノート

このセクションでは、Customer Carbon Footprint Tool に加えられた更新について説明します。このページでは、2025 年の新機能または更新機能、バグ修正、改善、廃止された機能に関するお知らせを一覧表示します。

2025 年 12 月 15 日

Customer Carbon Footprint Tool のデータ遅延を 2 か月短縮

Customer Carbon Footprint Tool と AWSData Exports は、使用量の翌月 15 日から 21 日の間 (12 月データが 1 月 21 日までに公開されるなど) に炭素排出量の見積もりを発行するようになりました。

より高速なデータ配信をサポートするために、スコープ 2 とスコープ 3.3 (燃料およびエネルギー関連のアクティビティ、FERA) の計算により多くの見積りを使用しています。これらのカテゴリは、その月の後半まで受信されないユーティリティ請求書に依存します。2026 年以降、AWS は翌年の 6 月までにユーティリティ請求書の実際のデータを使用して前年の排出量を再計算します。また、この機会を利用して、より新しいバージョンのデータソースを更新します。例えば、2025 データは、最新かつ最大の入力を使用して 2026 年 6 月までに再公開されます。

2025 年 10 月 22 日

スコープ 3 の排出量カテゴリを追加

スコープ 3.2 (IT ハードウェア、建物、機器)、スコープ 3.3 (燃料およびエネルギー関連のアクティビティ、FERA)、スコープ 3.4 (アップストリーム輸送および流通) など、新しい排出量カテゴリが Customer Carbon Footprint Tool とデータエクスポートに追加されました。また、スコープ 1 の冷料と自然ガスも追加しました。これらの新しい排出量カテゴリは、2022 年 1 月にバックフィルされています。

Note

2022 年 1 月までの履歴データを表示するには、新しいデータエクスポートを作成する必要があります。

データエクスポートには、スコープ (1、2、3) 別に排出量を分類する新しい列が含まれるようになりました。

方法論をバージョン 3.0.0 に更新

新しい排出量カテゴリ (スコープ 3、スコープ 1 の冷却材、および自然ガスカテゴリを選択) を組み込んだ新しい方法論をリリースし、以前のプロキシロジックからコスト配分に移行することで、内部チームの非基盤サービスの炭素配分を改善しました。過去の排出量は、この最新バージョンを使用して 2022 年 1 月に再計算されます。この更新の一環として、炭素推定値はデータソースから入手可能な最新のスナップショットを使用します。これには、2022 年、2023 年、2024 年の保証された炭素データセットを使用して、毎年データを再計算することが含まれます。

更新された方法の詳細については、「方法論 [ドキュメント](#)」を参照してください。この方法論は [サードパーティーによって保証されています](#)。

2025 年 8 月 15 日

複数のAWSリージョンでの市場ベースの排出量計算の更新

カナダ西部 (カルガリー)、カナダ (中部)、米国西部 (北カリフォルニア)、アジアパシフィック (ジャカルタ)、北米のエッジロケーションで を使用しているお客様は、2025 年 5 月のデータで市場ベースの排出量が減少します。アジアパシフィック (大阪) とアジアパシフィック (東京) で を使用しているお客様は、2025 年 5 月のデータで市場ベースの排出量が増加します。

これらの変更は、カーボンフリーエネルギーの使用を拡大し、2040 年までにネットゼロ炭素を達成する一方で、バンドルされていない再生可能エネルギークレジット (uRECs。これらの調整は、2025 年 1 月以降の排出量の計算に影響します。これらの更新は、一貫したレポートを確保するために、2026 年 Q1 四半期までに履歴データに実装されます。

2025 年 7 月 23 日

エネルギー消費量の計算ページが利用可能になりました

CCFT を使用してAWSクラウドカーボンフットプリントの推定エネルギー消費量を計算する方法を説明する新しいページを追加しました。詳細については、[「エネルギー使用量の計算」](#)を参照してください。

2025 年 7 月 17 日

フランクフルトおよびパリリージョンの排出量データ修正

欧州 (フランクフルト) および欧州 (パリ) で を使用しているお客様は、2025 年 4 月のデータでロケーションベースの排出量が 1 回だけ減少します。これら 2 つのリージョンの一意の構造では、過剰推定を約 29% (フランクフルト) および約 6% (パリ) 修正する新しいロジックが必要でした。この過剰見積もりは、2024 年 1 月から 2025 年 3 月の間に表示される Customer Carbon Footprint Tool および Data Exports データに影響しました。

2025 年 6 月 24 日

ロケーションベースのメソッド (LBM) の放出計算が開始されます。

Customer Carbon Footprint Tool とAWSデータエクスポートには、既存の市場ベースの方法 (MBM) 計算に加えて、ロケーションベースの方法 (LBM) を使用して計算された排出量が含まれるようになりました。LBM は、エネルギー消費が発生する電力グリッドの平均炭素強度に基づいて排出量を計

算します。世界中の電力グリッドは、電源によって異なります。中には、炭素を大量に消費する燃料に大きく依存しているものもあれば、水力やその他の再生可能エネルギーなどの低炭素源の割合が高いものもあります。LBM の詳細については、[GHG プロトコルスコープ 2 ガイダンス](#)を参照してください。

 Note

既存のデータエクスポートがある場合は、新しくリリースされた列を含めるように を更新する必要があります。以前にエクスポートされたデータは変更されず、ロケーションベースのメソッド (LBM) 計算は含まれません。履歴レコードに LBM データを追加するには、LBM 列を含む新しいエクスポートを作成します。詳細については、「データ[エクスポートユーザーガイド](#)」の「[エクスポートの詳細の編集](#)」を参照してください。AWS

Amazon CloudFront 排出量のデータ粒度が利用可能になりました

CCFT は、CCFT コンソール、CSV ダウンロード、およびAWSデータエクスポートにあるサービス内訳に Amazon CloudFront 排出量を個別に表示するようになりました。これは、Amazon EC2 と Amazon S3 で利用可能な既存の内訳と一致しています。

 Note

既存のデータエクスポートがある場合は、過去の月の CloudFront データを表示するには、データを再作成する必要があります。以前にエクスポートしたデータは変更されません。すべてのデータをバックフィルするには、新しいエクスポートを作成する必要があります。

詳細度と拡張履歴データ用に更新された排出量のしきい値

CCFT では、履歴カバレッジが拡張され、排出量データがより詳細なレベルで表示されるようになりました。以前は、 の推定排出量が 36 か月間に 0.05 MTCO₂e AWS アカウントを超えない場合、データは表示されませんでした。これで、任意の期間の排出量が 1 kg (0.001 MTCO₂e) に切り替わる限り、推定排出量が CCFT コンソールと CSV ダウンロードに表示されます。CCFT コンソールまたは CSV ダウンロードは、推定排出量が 0.0005 MTCO₂e を下回ると、選択した期間 0 emissionsに表示されます。この更新により、CCFT コンソールと CSV ダウンロードには、過去 36 か月ではなく 38 か月のデータが含まれます。

Note

データエクスポートは、引き続きグラム (0.000001 MTCO₂e) 解像度で排出量を表示します。

サービス割り当てロジックの改善

一部のAWSサービス (CloudWatch、Amazon Redshift、Sagemaker など) に、使用量や収益に基づくデータoverheadではなく、誤って排出量を割り当てた以前の CCFT 割り当てロジックで問題が見つかりました。新しい方法論 2.0.1 では、2025 年 3 月からこの問題が解決されます。この更新により、炭素排出量に何らかの変更が生じる可能性があります。

2025 年 4 月 24 日

CCFT がリージョンの詳細度をサポート

Customer Carbon Footprint Tool にはAsia Pacific (Tokyo)、AWS リージョンなどの排出量が表示されますUS East (Ohio)。による排出量AWS リージョンは、詳細なカーボンフットプリントを示しています。これにより、さまざまなでの使用が炭素への影響にどのようにAWS リージョン影響するかを確認できます。この情報を使用して、ターゲットを絞った削減戦略を開発することもできます。

炭素排出量の見積もりはAWSデータエクスポートで利用できます

炭素排出量の見積もりに関する炭素データエクスポートは、請求情報とコスト管理データエクスポートから入手できます。顧客がを使用するとAWS Organizations、炭素排出量データのエクスポートは、管理アカウントにリンクされたすべてのメンバーアカウントの炭素排出量の見積もりを提供します。エクスポートは、指定された Amazon S3 バケットに定期的に配信されます。そこから、ビジネスインテリジェンスとレポートシステムでデータを使用できます。この機能は、複数のからの炭素排出量データの統合と配信を合理化AWS アカウントし、持続可能性チームやビジネスアナリストが複雑なAWS環境全体の環境への影響を監視するために使用します。

Carbon Data Exports は、すべての商用AWSリージョンで利用できます。Amazon S3 バケットへの毎月の自動エクスポートは、CSV 形式または Parquet 形式で設定できます。データは、アカウントレベルとリージョンレベルの両方の詳細を提供します。組織は、セットアップから 24 時間以内に最大 38 か月の履歴データにアクセスできます。これにより、手動によるデータ収集を必要とせずに、ベースライン分析とトレンドレポートが可能になります。最初の炭素エクスポートを設定するには、[AWS「データエクスポート」](#)を参照してください。

CCFT 手法をバージョン 2.0 に更新

Customer Carbon Footprint Tool は、2025 年 1 月のデータのリリースで更新された方法論を使用しています。この方法は、サードパーティーのコンサルタントである Apex によって保証されています。サードパーティー検証レターの全文については、[AWS「Customer Carbon Footprint Tool methodology assurance letter」](#)を参照してください。

この方法論の更新の結果として、報告された推定排出量の数値が変更された可能性があります。新しい方法では、実際のAWSのサービス使用量に基づいて炭素排出量をより正確に把握できます。2024 年 12 月以前の Customer Carbon Footprint Tool データは、引き続き以前の方法 (バージョン 1.0) を使用します。

Customer Carbon Footprint Tool の値の計算方法については、[「Customer Carbon Footprint Tool \(CCFT\) Methodology」](#)を参照してください。

2025 年 1 月 15 日

CCFT が新しい専用コンソールページに移動しました

Customer Carbon Footprint Tool がAWS Billing and Cost Managementコンソールの専用ページに移動しました。ページは、ナビゲーションペインのコストと使用状況の分析にあります。の前の場所 AWS Cost and Usage Reportは廃止されました。

2023 年の Customer Carbon Footprint Tool リリースノート

このセクションでは、Customer Carbon Footprint Tool に加えられた更新について説明します。このページには、2023 年の新機能または更新された機能、バグ修正、改善、廃止された機能に関するお知らせが一覧表示されます。

2023 年 4 月 19 日

CSV ダウンロード機能を有効にして粒度を改善

Customer Carbon Footprint Tool は CSV ダウンロードオプションをサポートしています。これにより、詳細なカーボンフットプリントデータを確認し、他のレポートシステムのデータを使用して詳細な分析や情報共有を行うことができます。

2022 年の Customer Carbon Footprint Tool リリースノート

このセクションでは、Customer Carbon Footprint Tool に加えられた更新について説明します。このページには、2022 年の新機能または更新機能、バグ修正、改善、廃止された機能に関するお知らせが一覧表示されます。

2022 年 3 月 1 日

AWSCustomer Carbon Footprint Tool の本番稼働

Customer Carbon Footprint Tool を使用して、AWSワークロードの環境への影響を計算できるようになりました。この新しいツールは、複数の目的で直感的なデータ視覚化を使用します。過去の炭素排出量を提供し、AWS使用量の変化に応じて排出量の傾向を評価します。また、このツールは、お客様がオンプレミスのデータセンターAWSの代わりに を使用して回避した推定炭素排出量を概算します。最後に、現在の使用状況に基づいて予測排出量を確認します。これらの排出量は、Amazon が 2025 年までに 100% の再生可能エネルギーで運用を強化するという目標に向かっているにつれて、カーボンフットプリントがどのように変化するかを示しています。これは 2030 年の当初の目標の 5 年前であり、The Climate Pledge の一環として 2040 年までに炭素ネットゼロを目指します。

AWS Billing and Cost Managementコンソールで Customer Carbon Footprint Tool を使用して、持続可能性ジャーニーをサポートできます。サインインすると、地理的場所別および AWS のサービス (Amazon EC2 や Amazon S3 など) ごとに炭素排出量データを表示できます。新しいリソースをクラウドにデプロイするときに、時間の経過とともにカーボンフットプリントの変化を測定することもできます。Customer Carbon Footprint Tool は、温室効果ガス報告の国際標準である温室効果ガスプロトコルを満たすデータを使用します。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。